

高山交通圏タクシー準特定地域計画（更新）

（令和4年10月～令和6年9月）

令和5年9月1日

高山交通圏タクシー準特定地域協議会

1. 計画策定の背景

1-1 タクシーの位置づけ・関連法

タクシーは「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」において、公共交通機関の一つに定義され、鉄道・バスと同様に、地域の足を担う公共交通機関としての役割を果たしている。しかしながら、タクシーを取り巻く環境は厳しく、人口の減少やモータリゼーションの進展、そしてバブル崩壊以降長引く景気低迷等によるタクシー需要の減少等により、旅客の減少が続き、一層厳しい状況となっている。

こうした状況は全国的であることから、国は「特定地域及び準特定地域における一般乗用自動車運送事業の適正化及び活性化に関する特別措置法」（以下、タクシー特措法）に基づき、地域毎にタクシーの活性化に取り組むように求めている。

1-2 交通圏の実態

新型コロナウイルス感染症の感染防止対策により不要・不急な外出が制限され、インバウンド観光を含めた交流人口が減り、これに伴いタクシーの輸送人員が大幅に減少した。感染者が減少してもコロナ前の水準に戻すには相当な時間と活性化策が必要である。

高山交通圏は、都市部とは違いテレワークによる影響がない一方で、コロナ禍による自宅への引きこもりの常態化が消費を減退させている。タクシーは、観光客の移動手段や交通弱者を中心とした通院や買い物、飲酒後の帰宅等で利用されており、コロナ禍での生産活動の落ち込みより、消費活動の萎縮がタクシー経営に大きな影響を与えている。

タクシー乗務員の獲得では、乗務員の賃金に課題があるものの、乗務員として働くことにより、第二の人生を経済的に多少豊にすることや、働くことを諦めていた人に労働の場を提供すること、またフレックスタイム制度により新しいライフスタイルが可能になることを示すことができるか否かにかかっている。

令和4年度に実施した聞き取り調査では、支部会員から下表の様な現状の課題が挙げられている。

【現状と問題点】

- 新型コロナでタクシー利用者が大幅に減少
- 地域住民への質の高いサービスの提供が課題
- 乗務員不足により配車要望に応えられない
- 乗務員の高齢化
- インバウンド拡大に向けた対応

2. 地域計画の位置づけ

長引く新型コロナの関係でインバウンドなどの観光客が激減し、また、飲食店の営業時間の短縮等で旅客が激減し、タクシー事業への影響は計り知れなく、経営の立て直しに苦慮している。

地域住民や観光客に対し質の高いサービスを継続的に提供することと、タクシー業界内で連携し、また自治体と連携して地域公共交通としての役割を担うべく、活性化策を展開していく必要がある。

そこで本計画では、これまでタクシー業界が取り組んできた様々なタクシー活性化・適正化の取り組みを進めるとともに、自治体等と協働することで、より実効性の高い活性化策を実現するべく策定するものである。

3. 計画目標・構成

本計画の計画期間は2年（令和4年10月～令和6年9月）とし、次に掲げる目標を達成すべく、各タクシー事業者及び関係主体が連携して活性化策を実施する。

協議会は、活性化施策の進捗状況の確認・評価を行うと同時に、交通圏内のタクシー活性化を目指した連携・協議の場である。必要に応じて協議会に参画していない機関への協力を要請することとする。

<目標>

地域公共交通であるタクシー事業を安定的に供給する。

地域住民や観光客に対し質の高いサービスを提供するため、業界や自治体との連携を強化する。

本計画は3部から構成される。

第1部は、「特定地域及び準特定地域における一般乗用旅客自動車運送事業の適正化及び活性化に関する特別措置法」に係るフォローアップ施策を掲げる。これらは、通達に基づき検証される。

第 2 部は、適正化策・活性化策を確実に実施していくため、各事業者が重点的に実施する「サービス向上に係る取組みの目標」ならびに「運営（人材確保・乗務員教育等）に係る取組みの目標」を掲げる。年毎に実施状況を確認する。

第 3 部は、交通圏独自の連携施策として、自治体等の協議会構成員と連携した取り組みを掲げる。協議会等での検討を重ね、計画期間内での実行を目指す。

第 1 部

「特定地域及び準特定地域における一般乗用旅客自動車運送事業の適正化及び活性化に関する特別措置法」に係るフォローアップ

国土交通省自動車局長からの平成 28 年 12 月 27 日付け国自旅第 266 号通達に基づく活性化事業（下記 9 項目）について、通達に基づき検証する。

内容	実施状況の確認
妊婦・子ども向けタクシー取組事業者数及び認定運転者数拡大	通達に基づき検証 ✓ 協会事務局が、毎年度実施状況の調査。 ✓ 調査結果を国へ報告 ✓ 各事業者においては、各項目の目標の設定し、目標達成に向け努める。
UD 研修受講事業者数及び受講運転者数拡大	
観光タクシー取組事業者数及び認定運転者数拡大	
外国語講習受講事業者数及び受講運転者数拡大	
アプリ配車の導入事業者数及び対応車両数拡大	
UD タクシーの導入事業者数及び導入車両数拡大	
環境対応車の導入事業者数及び導入車両数拡大	
先進安全自動車（ASV）導入事業者数及び導入車両数拡大	
クレジットカード・電子マネー等導入事業者数及び導入車両数拡大	

第2部 各事業者の重点的に取り組む事業

まず適正化策として交通圏全体で2%の減車を目標に掲げて取り組み、次に各事業者の「①サービス向上に係る取組みの目標」ならびに「②運営（人材確保・乗務員教育等）に係る取組みの目標」を示す。

協議会にて当年(R4.10~R5.9)の達成状況を報告するとともに、次年(R5.10~R6.9)の目標を掲げる。

1. 令和4年（R4.10~R5.9）の事業者の目標に対する達成状況

令和4年(R4.10~R5.9)の重点目標		令和4年の達成状況	
久々野タクシー	サービス面	<ul style="list-style-type: none"> ・車内消毒など安心安全な輸送サービスを提供する。 ・高齢者へのきめ細やかなサービスの向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・車内清掃を怠らず、清潔に保つことができた。 ・社員一同、利用者の声に耳を傾け、丁寧なサービスを心がけることができた。
	運営面	<ul style="list-style-type: none"> ・人材確保の取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ・1名若手社員の確保ができた。
山都自動車	サービス面	<ul style="list-style-type: none"> ・お客様の利便性を向上する。 スムーズな配車対応 キャッシュレスの拡充 車内でのサービス向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・新配車システムを駆使し、お客様の待ち時間の短縮が図れた。 ・クレジットカード（7社）、QRコード決済（6社）、電子マネー（2社）交通系電子マネー（9社）導入し車内サービスの向上が図れた。
	運営面	<ul style="list-style-type: none"> ・配車システムを活用し、効率の良い運行を行なう。 ・デマンドのシステム化を図り、効率の良い運行を行なう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新配車システムを駆使し、効率の良い運行が行われるようになった。 ・デマンドのシステム化を図り、効率の良い運行が可能となった。

鳩 タ ク シ ー	サービス面	<ul style="list-style-type: none"> •車内の仕切りや消毒などにより、安全な輸送サービスを提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> •車内での乗客からの感染、乗務員からの感染拡大はなかった。防御カーテンの設置、車内消毒、金銭受取トレー、換気、マスク着用、うがいを実施した。
	運営面	<ul style="list-style-type: none"> •需要に対する供給力の確保 •高山市公共交通への参画 •経営の立て直し 	<ul style="list-style-type: none"> •乗務員の確保が十分に出来なかった。方法を多様化し、注力を継続する。
濃 飛 乗 合 自 動 車	サービス面	<ul style="list-style-type: none"> •自治体や関係機関等と連携を密にし、利用促進に向けたPR、新たなサービスの模索に取り組む。 •海外への出控えによる国内旅行の需要拡大に対応した新たな観光プランの造成や、エージェント販売、ネット予約などの販売チャンネル強化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> •自治体と協力し高齢者利用券の配布、ワクチン接種時の一定額を超えた運賃の負担、飲食店利用者へのタクシー運賃の一部負担キャンペーンなどを行った。 •国内旅行者向け観光プランをインターネットで積極的に販売した。
	運営面	<ul style="list-style-type: none"> •運営面の安定を図るため、引き続き、積極的な人材募集に取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> •乗務員不足が解消されるには至っていない。
宝 タ ク シ ー	サービス面	<ul style="list-style-type: none"> •アフターコロナを見据えて、長距離、貸切運行の受注PR •全ての年齢層のお客様に利用してもらえようように各種サービスをPR 	<ul style="list-style-type: none"> •前年に比べて、長距離運行が増えた。(富山方面) •貸切で旅行を考えている方からの見積り依頼も増えてきた。

	運営面	<ul style="list-style-type: none"> • 運転者の感染防止の徹底 • 乗務員と受付業務者の教育 	<ul style="list-style-type: none"> • 引き続き車内消毒、仕切り板、運転手のマスク着用の徹底。 • 全体、担当別で、それぞれ何度かミーティングの場を設けた（受付に関しては、全員が同じ受け答えで対応できるように）。
古川タクシー	サービス面	<ul style="list-style-type: none"> • 車内の仕切りや消毒などにより、安全な輸送サービスを提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 車内での乗客からの感染、乗務員からの感染拡大はなかった。防御カーテンの設置、車内消毒、金銭受取トレー、換気、マスク着用、うがいを実施した。
	運営面	<ul style="list-style-type: none"> • 需要に対する供給力の確保 	<ul style="list-style-type: none"> • 乗務員の確保が十分でなかった。
宮川タクシー	サービス面	<ul style="list-style-type: none"> • クレジットカード決済端末の導入 • 外国人観光客に対応するため、通訳タブレット端末の導入 	<ul style="list-style-type: none"> • 補助金を利用して導入を検討中。未だ導入に至っていない現状。 • 未だ導入に至っていない。
	運営面	<ul style="list-style-type: none"> • 引続き若い世代の人材確保 • 観光タクシーの強化 	<ul style="list-style-type: none"> • 1名確保できた。中々難しい状況 • インバウンドのお客様が増加傾向
高山代行運転組合	サービス面	<ul style="list-style-type: none"> • QRコード決済の充実 • 車内を清潔にし、感染防止対策を徹底 	<ul style="list-style-type: none"> • QRコード決済はある程度充実しました。 • 車内感染はなく、感染防止対策は達成できました。
	運営面	<ul style="list-style-type: none"> • ドライバーを必続き募集し、人材確保に取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> • ドライバー不足は解消できませんでした。

白山タクシー	サービス面	<ul style="list-style-type: none"> ・キャッシュレスの拡充 ・安心安全な社内を確保 ・乗務員の健康確保と感染防止 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在QR決済のみ ・事故等なし ・病欠、感染者ゼロ
	運営面	<ul style="list-style-type: none"> ・村・観光協会と連携し周遊観光を促進していきたい ※観光協会プランパッケージなどにも連携 ・乗務員の募集 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光協会主催の村内周遊観光ツアーを2回実施 ・乗務員採用なし

2. 令和5年（R5.10～R6.9）の事業者の重点目標

令和5年(R5.10～R6.9)の重点目標			備考
久々野タクシー	サービス面	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の利用が多い為、臨機応変な対応で、地域に密着したサービスを提供する。 	
	運営面	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、ドライバーの確保に取り組む ・社員の健康確保 	
山都自動車	サービス面	<ul style="list-style-type: none"> ・お客様の利便性の向上に向けてシステムアップを図る。 ・車内でのサービス向上 ・観光客向けサービスの提案 	
	運営面	<ul style="list-style-type: none"> ・配車システム運用の向上による、配車人員の簡素化を図る。 ・デマンドのシステムを駆使し、効率の良い運行を行う。 ・乗務員の労働環境、労働時間、賃金等の改善（2024年問題も踏まえて） 	
	サービス面	<ul style="list-style-type: none"> ・UD（ユニバーサルデザイン）タクシーの導入等UD化の推進 	

鳩 タクシー		<ul style="list-style-type: none"> ・清潔な車内、あいさつ、丁寧な言葉使い。 ・英会話研修や翻訳アプリにより外国人との意思疎通を改善する。 	
	運営面	<ul style="list-style-type: none"> ・人材募集に注力する。 ・ユニバーサルドライバーの養成。 ・労働環境の改善（賃金・労働時間） 	
濃飛乗合 自動車	サービス面	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き自治体と連携し、地元利用の拡大を図る。 ・観光プランのインターネットでの積極的な販売、エージェントへの売り込みを行う。 	
	運営面	<ul style="list-style-type: none"> ・賃金改定を実施する。 ・営業所施設を建て直し、女性乗務員休憩室を新設する。 ・自治体と連携し、乗務員の募集や運転士養成制度の充実を図る。 	
宝 タクシー	サービス面	<ul style="list-style-type: none"> ・ドア to ドアのサービス向上 ・公共交通事業との共存 ・市内観光ルートの提案、長距離営業の確保 	
	運営面	<ul style="list-style-type: none"> ・運賃改定に伴い、運転者の手当見直し、労働負担の軽減検討 ・人材確保（ドライバー、受付業務者） 	
古川 タクシー	サービス面	<ul style="list-style-type: none"> ・清潔な車内、あいさつ、丁寧な言葉使い。 ・英会話研修・翻訳アプリにより外国人との意思疎通を改善する 	
	運営面	<ul style="list-style-type: none"> ・人材確保に注力する。 ・労働環境の改善（賃金・労働時間） 	
宮川 タクシー	サービス面	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、クレジットカード決済端末の導入。 ・外国人観光客に対応するため、通訳タブレット端末の導入 	
	運営面	<ul style="list-style-type: none"> ・人材確保 	

		<ul style="list-style-type: none"> 配車システム導入 介護タクシーや観光タクシーの強化 	
高山代行 運転組合	サービス面	<ul style="list-style-type: none"> 外国人の需要拡大に向け翻訳機を増やす。 	
	運営面	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き人材確保に向け、募集に取り組む。 	
白山 タクシー	サービス面	<ul style="list-style-type: none"> キャッシュレスの拡充 乗務員の健康確保と感染防止 	
	運営面	<ul style="list-style-type: none"> 村や観光協会と連携し、周遊観光を促進していきたい。 ※観光協会プランパッケージなどにも連携 乗務員の募集 	

第3部 交通圏独自の連携施策

協議会等での検討を重ね、自治体等の協議会構成員と連携したい取り組みを掲げて、計画期間内での実行を目指す。以下は、令和4年に実施した調査のうち、業界連携・他主体連携のもとで進めたいと回答された施策案を示す。

タクシー事業者の意見	<高山交通圏内のタクシー事業者と協同・連携したいサービス>
	タクシーの利便性をPR
	交通空白地の運用を検討
	他交通圏の事例研究
	<自治体等と連携したい取り組み>
	自治体事業でタクシー利用を促進
	白タク規制の法整備に向けた問題提起
	デマンド等公共交通への参画（未導入事業者）
	デマンド運行のシステム化による効率化（導入事業者）
	地域住民とともにIT化を推進
	高山駅周辺（西側）の開発に向けた連携
	観光周遊ルートの造成

＜タクシー事業者と連携したい取り組み＞

- | |
|----------------------|
| 自由度の高いデマンドタクシーの運行 |
| バスなどの他の公共交通機関との連携 |
| 観光利用でタクシーのあり方を検討したい |
| タクシーで回れるようなモデルコースの造成 |

長期的な需要の減少に加えてドライバーの高齢化や乗務員不足に苦しむなか、外出の自粛や訪日外国人の減少を招いたコロナ禍が追い打ちをかけ、経営が成り立たない状況にある。しかし、通院に日々利用してもらえるお年寄りなどタクシーを使わざるを得ないという一定の需要がある限り、稼働をゼロにできない。

業績の立て直しが喫緊の課題であり、引き続き若年層や女性乗務員の確保に向けて検討するほか、年金を受給しながらタクシーに乗務する「セミリタイヤ」世代の確保も検討する。

一方で、住民への輸送サービスを維持しつつ、ウィズコロナとアフターコロナに着目して「観光客とタクシー」「タクシーを活用した観光周遊ルート」に関連する勉強会などの開催や、交通圏内で連携実施する取り組みの検討等を進めていく。